

**委託事業実施内容報告書**  
**平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(B)】**  
**実施内容報告書**

団体名：認定特定非営利活動法人教育活動総合サポートセンター

**1. 事業の概要**

事業名称	ともに学ぶ日本語学習支援事業
事業の目的	地域社会で外国につながる子どもたちおよび外国人市民が、対話型の活動を通して、日本での生活において、また自分の国や地域の文化・習慣を伝えるのに必要な日本語を習得し、日本語でのコミュニケーションのあり方を学ぶ。また、日本語母語話者も、取組を通して、市民同士としての関係が築けるようなコミュニケーションのあり方を学び、ともに学びあう。そして、これまでの成果を広く地域住民や行政・教育機関等に発信し、地域に暮らす外国人等市民の現状や課題について理解を深め、多文化共生のまちづくりに寄与する。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	①川崎市の外国人市民の国籍は125カ国以上で、分散して居住し、同国人のコミュニティも少ない。川崎市では、外国人人口は年々増加している。また、平成26年からの4年間で外国籍年齢別0～4歳人口においては、約4割増加している。日本生育の外国につながる子どもたちを含めるとさらに倍以上になると考えられる。多文化・異文化環境で育つ子どもたち(日本生育も含む)は、就学前も就学後も学校生活で必要となる日本語を十分に習得する環境にない場合もある。その保護者は日本での養育や教育に関する情報が不足していることに加え、日本語でのコミュニケーション能力が十分でないことから、孤立し、地域社会への参加もできないこともある。そうした現状について、教育関係者や日本語教育の支援者ですら外国人市民の実態に対して問題意識が希薄である。 ②地域に暮らす外国につながる子どもたちや保護者、外国人市民の声や地域日本語教育に関する現状や課題が、地域住民や行政・教育等機関に対して十分に発信できていない。 ③地域の日本語学級等で学び、日本語でのコミュニケーション能力が高いバイリンガル外国人市民が、本来持っている能力を十分に発揮し、地域の多文化共生のまちづくりの担い手となる活動の機会は少なく、日本で暮らす上の課題について地域住民や行政・教育機関の職員等と一緒に考える場が少ない。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	①外国につながる子どもたち(日本生育も含む)と保護者が、学校生活で必要となる日本語や学習内容を理解するための日本語、友だちや先生とのコミュニケーション方法などを学ぶ日本語・学習教室を近隣の小学校と連携しながら、地域で対話型の活動として実践した。その活動の中で、平成26年度より実践してきたデジタルストーリーテリング(DST)の手法を活かし、外国につながる子どもたちや保護者等が自分の声で映像作品を制作し、自分の経験や思いなどを語り・書き・日本語で表現することを学んだ。また、日本の学校文化・習慣などを学ぶ就学前の親子教室を小学校と協働で行った。さらに、外国につながる子どもたちや保護者をサポートするための日本語サポーターの心構えや学習支援の方法を学ぶ養成講座も行った。 ②外国につながる子どもたちや保護者等外国人市民の声である成果物としてDST作品を地域住民や教育・行政関係等機関などを対象とし上映し、地域における日本語や学習支援および保護者への支援など多面的な支援の必要性の理解をしてもらうとともに、ともに暮らすための課題を共有し、外国人市民との対話の場も設ける取組を行った。
事業の実施期間	平成30年6月～平成31年3月(10か月間)

## 2. 事業の実施体制

### (1) 運営委員会

#### 【運営委員】

1	北沢 仁美	公益財団法人川崎市国際交流協会
2	田中真砂美	川崎市教育委員会
3	矢部まゆみ	横浜国立大学
4	鈴木 克彦	川崎市総合教育センター
5	三枝 正孝	地域日本語教育推進連絡調整会議
6	南 昭子	川崎市幸区役所
7	木村 利恵	川崎市幸区役所生涯学習支援課(幸市民館)
8	加藤真帆子	NPO日本語・教科学習支援ネット
9	池田 恵子	幸国際子育てクラブ トントン
10	吉田 和江	認定特定非営利法人教育活動総合サポートセンター



#### 【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年6月12日 (火) 10:00~12:00	2	川崎市教育会館	北沢仁美 田中真砂美 鈴木克彦(代理 福岡弘行) 矢部まゆみ 三枝正孝 南 昭子 木村利恵 池田恵子 吉田和江	1. 平成29年度事業報告 2. 平成30年度事業計画の検討 3. 地域の課題と体制づくりの検討
2	平成30年10月5日 (金) 10:00~12:00	2	川崎市教育会館	田中真砂美 鈴木克彦 三枝正孝 木村利恵 池田恵子 吉田和江	1. 平成30年度事業経過報告の検討 取組1、取組2の各プロジェクトの進行状況の報告と検討 2. 地域の課題に関する情報交換
3	平成31年3月6日 (水) 14:00~16:00	2	川崎市教育会館	北沢仁美(代理 中村高明) 田中真砂美 矢部まゆみ 鈴木克彦 南 昭子 加藤真帆子 池田恵子 吉田和江	1. 平成30年度事業経過報告 取組1、取組2の各プロジェクトの進行状況報告 2. 今後の地域日本語教育のための情報交換と地域連携の意見交換

### (2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	「外国につながる子どもたちを地域とつなげる」プロジェクトでは、学校・行政機関関係である総合教育センターや小・中学校、区役所、保育園等と協働で実施し、任意団体ではあるが、実績のある多文化共生保育研修会や幸国際子育てクラブトントンとも連携し、地域におけるネットワークや関係づくりを促した。「思いを伝えて地域とつなげる」プロジェクトでは、外国につながる子どもたちやその保護者、そして地域に暮らす外国人市民の声として4年間の成果物であるDST作品のいくつかを公共機関等と連携・協力し、上映し、地域における日本語や学習支援および保護者への支援など、多面的支援の必要性について理解を深める活動に取り組んだ。活動に参加した外国人等市民には、幸区多文化共生推進事業実行委員会のイベントや多文化共生講座などの地域のイベントに主体的な参加を促し、社会参加の機会とすることに努めた。こうした地域のリソースを活用し、地域住民と外国人等市民とをつなげた。
------	--

### (3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	地域日本語教育における日本語サポーターの役割や外国人等市民の社会参加などについて、中核メンバーがそれぞれ受け持つ取組の中でどう関与できるのか考え、検討し、「外国につながる子どもたちを地域とつなげる」プロジェクトでは、外国につながる子どもの発達や成長に応じた指導のあり方や具体的な支援方法を大学教員等の講師から学びながら、外国につながる子どもたちの日本語・学習支援を加藤氏とともに当NPO所属の元教員が中心になって実施した。また、就学前からの支援の体制構築をめざし、コーディネーターの池田氏と当NPO所属の元教員が保育園や幼稚園、小学校等に働きかけ、その接続部分を側面から支援した。「思いを伝えて地域とつなげる」プロジェクトでは、平成26年度～29年度に自分の経験や思いを語り、制作したDSTの約50作品のうち数作品を地域の施設等で上映することにより、外国人市民の声を地域や教育機関等に届け、地域における日本語や学習支援および保護者への支援など多面的な支援の必要性の理解が促進されるよう矢部氏、加藤氏とコーディネーターの池田氏、および当NPO法人所属の元教員を中心に実施した。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組の名称		「思いを伝えて地域とつなげる」プロジェクト								
取組の目標		平成26～29年度の取組の成果発表として、外国につながる子どもたちや保護者、外国人市民が制作した作品を上映・対話会を実施し、外国人等市民の抱える課題を共有し、広く地域住民に多面的な地域日本語教育および支援の必要性を共有し理解を促すことができる。ファシリテーター養成のワークショップを行い、上映会・対話会のファシリテーターとして、DSTを活用しながら地域に発信する力を身につけることができる。プロジェクトを通して、住民同士がつながり、日本人とか外国人とか関係なく市民として横の関係を築けるようなきっかけをつくる。								
取組の内容		外国人が制作したDSTの上映会・対話会を通して、日本人と外国人等市民が地域住民としてつながる活動を実施した。 A:これまでに外国につながる子どもたちや保護者、外国人市民が制作したDST作品を公共施設等で上映し、視聴者との対話会を行った。 B:地域住民や行政・教育機関等の職員など多様な人との対話をファシリテートする力を身につけた。								
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備		地域の識字・日本語学級でも、自分のことを語り、書き、伝える活動の理解を広めるため、さらには地域の外国人等市民の課題を知り、共有するために、公共施設等でDST作品の上映を行い、多面的な地域日本語教育および支援の必要性を伝え、行政関係機関や教育・福祉関係機関とも連携・協働体制し、対話する場を設定した。								
取組による日本語能力の向上		これまでの制作者が、作品上映会に参加し、さらに自分のことを伝えたり、考えを述べたり、不特定多数の人に向けた話し方や伝え方をブラッシュアップさせた。地域住民や行政職員等と日本語で対話するために、日常会話とは質の異なる語彙やその場にふさわしい日本語の運用能力も身につけるように努めた。								
参加対象者		川崎市および神奈川県内に居住する外国人市民・日本人市民	参加者数 (内 外国人数)			121人 ( 11人 )				
広報及び募集方法		チラシ、HP、メーリングリストなど								
開催時間数		総時間 10.5 時間	内訳 (第1, 2, 4回) 2.5時間×3回			(第3回) 3時間×1回				
主な連携・協働先		川崎市教育委員会、川崎市総合教育センター、DST研究所、藤沢市みらい創造財団(青少年会館)、公益社団法人青年海外協力協会(あーすぷらざ)、ユッカの会、公益財団法人川崎市国際交流協会、にほんごワールド、幸国際子育てクラブトントン								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	5	2	1			1				110
※該当する場合のみ		ルーマニア 2								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年6月23日(土) 13:30-16:30	2.5	川崎市 幸市民館	14	ファシリテーション・ワークショップ ①	多文化共生の対話のための ファシリテーションワークショップ 対話のファシリテーション「聴く」「相互理解」 を中心にデモ実演と演習	小澤 真人	加藤真帆子 西山陽子 矢部まゆみ		
2	平成30年6月24日(日) 13:30-16:30	2.5	川崎市 幸市民館	15	ファシリテーション・ワークショップ ②	多文化共生の対話のための ファシリテーションワークショップ 討議のファシリテーション「つなぐ」「思 考の整理」を中心にデモ実演と演習	小澤 真人	加藤真帆子 西山陽子 矢部まゆみ		
3	平成30年11月11日(日) 13:30-16:30	3	藤沢市 青少年会館	21	DST上映会・対話会	外国につながる子どもの気持ち・お母さん・友達の気持ち ～当事者の声を聞き、ともに考えよう～ ①挨拶・趣旨説明 ②子ども・保護者の DST作品上映 ③3グループに分かれ対 話会 ④全体共有⑤交流会	加藤真帆子	(補助)荒明美奈子 西山陽子 古屋恵子 矢部まゆみ (発表者)張子樺 仲田シリワン (保育者)林愛子		
4	平成30年12月16日(日) 13:30-16:00	2.5	神奈川県 立地球市民かなが わプラザ (あーすぷ らざ)	36	DST上映会・対話会	複数の言語・文化の間で生きる ～中国帰国者と日系ブラジル人の個人 の声を聴く～ ①挨拶・趣旨説明 ②中国帰国者と日系 ブラジル人のDST作品の上映 ③ユッカ の会の支援について ④4グループに分 かれ対話会 ⑤全体共有・まとめ	矢部まゆみ	(補助)荒明美奈子 片桐文雄 加藤真帆子 西山陽子 古屋恵子 (発表者)猿田勝久 石原みどり 中和子		

## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

【取組1A 第1回 平成30年6月23日(土) ファシリテーション・ワークショップ@川崎市幸市民館】

1. 趣旨説明
2. 自己紹介・ミニ対話(問題意識の共有「多文化共生と対話ファシリテーション」)
3. 講義(①DSTについて ②聴く・つなぐ・戻す、③上映会の聴く手順)
4. デモ実演(上映会とファシリテーション)
5. 質疑とポイント解説(聴くスキルと共感、相互理解)
6. ミニ演習(「演習、振り返り、質疑」ファシリテーター、参加者、観察者)
7. 全体質疑
8. まとめ(物語とコミュニティ)
9. 次回告知



### ○取組事例②

【取組1B 第2回 平成30年12月16日(日) DST上映と対話の会@あーすぶらざ】

1. 開会あいさつ、趣旨説明
2. Aさん(中国帰国者1世)の経験と思い:  
①作品上映「波乱万丈 私の人生」「日本語を学んで日中の架け橋に」②補足説明Q&A(近くの席の人2~3人で3分ほど話してから全体で共有)
3. 中和子さん(ユッカの会代表)のお話「Life(生命・生活・人生)を支える活動とことば」
4. Bさん(ブラジル日系人3世)の経験と思い:  
①作品上映「私の子供時代」「私と子供のDREAM」②補足説明Q&A(近くの席の人2~3人で3分ほど話してから全体で共有)
5. 対話会:4グループに分け、ファシリテーター2名(主・複)ずつ配置して進行。自己紹介(1人1分)→感想(付箋に記入し話しながらボードに貼る)→ボード上でグルーピング→ファシリテーターにより全体共有
6. アンケート~この企画に対しての感想や意見を所定の用紙に記入した。



## (2) 目標の達成状況・成果

前年度の上映会・対話会の実施の反省から、上映会・対話会において、どう参加者同士が相互理解を深めていくか、どう話をつないでいくかという課題があり、「多文化共生の対話のためのファシリテーション・ワークショップ」を実施した。受講者として制作者も、参加し、一般の受講者とともに、どう相互理解を深めるか等を一緒に考えることができた。受講者からはDST作品の上映会を検討したいという声があり、その後、所属団体でのDST上映会を行うことになり、DST作品の貸出を行った。

DST作品の上映会・対話会は、作品の組み合わせを考え、地域の課題に合わせてテーマを絞ることで、当NPO法人の地元以外の新たな自治体でも上映会を開催することができた。上映会の視聴者は、外国人等市民の抱える課題について、DST作品より感じとり、また実際にDST作品を制作した外国人等市民の「今」の話も聴くことができた。その結果、DST作品からのメッセージや制作者の話から、視聴者自身が感じたことや感じている課題につながり、参加者同士の共通の課題として話すことができた。アンケートより、外国人等市民の状況、抱えている課題などを知ることができ、理解が深まったとの感想が多かった。発表者の生き方や社会の在り方について考えることができたという声も聞かれた。制作者はもちろんのこと、視聴者も、対話会を経て、考えを発信するきっかけになったとのが記してあった。上映会で、参加者とのやりとりや話を聴き、相手のことを考えながら自分の意見を述べなければいけないことが、対話の力を伸ばすことにつながったと考えられる。そのことは外国人等市民だけでなく関わる市民にも言えることだと考える。住民同士のつながりに関しては、藤沢では子どもたちの学習支援に関わる方々のネットワークとなったりさまざまな機関との連携、ボランティア団体の方々とのつながりができたりしたこともあった。日本語教育の部分については、制作過程で文法や語彙を学ぶことを超え、このような場で発信すること、発信を準備する中で日本語の力を鍛えてきたところもある。地域住民の方、日本語の支援に関わっている方だけでなく、今回は大学生の参加もあった。大学生からは、外国人等市民や支援者、地域住民などの生の声を聴き、自身の学びにつながったという回答があったが、大人が真剣に話しあっている姿に驚いたということも聞かれた。また、年齢期に来日した大学生や留学生の参加もあり、いろいろな立場の「外国人」に出会い、話を聴くことができた。また、藤沢では昨年に続いて2回目の開催となったため、昨年と同じ方が来てくださったり子どもたちや保護者も来たりと輪が広がり、継続による認知度の高まりを感じた。例えば、後日のインタビューからわかったことだが、参加した外国人の保護者が、対話会の中で「これまで子どもがサポートをうけていたけれど、私も何かサポートしたい。」との言葉を発し、実際に日本人側からいろいろな提案を受けているのを見て、そのお子さんが自分の親が先生方からお願いをされていて誇りに思ったらしいと、その保護者が述べていた。

また、ファシリテーション・ワークショップの講座を受けて、講座参加者もその実践の場として、藤沢および横浜での上映会・対話会に自信をもって臨むことができた。あーすぶらざの上映会では初期段階から制作者と話し合い、制作者が思いを十分伝えられた満足度が高かったようである。上映会・対話会の進行に関しては、「上映会・対話会の前に行ったファシリテーション・ワークショップが大変有効であった」とスタッフのふりかえりでは有効性が語られた。

## (3) 今後の改善点について

このDSTの作品は日本語の学習の一環としての制作物である。そのため、制作者本人がいないところで見せたときには制作者の意図が伝わりにくいということが昨年度までの活動でわかっている。作品そのものだけでなく、本人の語りやセットにした上映にした方がより効果的であるというのが運営委員会などの結論になっている。研修などで、セットにしないで映像作品を使うのであれば、課題に焦点を当ててプロが作成したものを使った方が効果的かもしれない。本人の語りと合わせてDST作品を上映するにあたっては、準備段階で、制作者の方と企画や目的について丁寧な話をすることが大切である。このプロジェクトは終了するが、これから開催する時には、上映会・対話会を制作者とともに作っていくことに意義があることを伝えていくことが必要である。それが、外国人市民が生活者として生きていく一歩になると考える。

今回、藤沢・横浜で開催したことについて、同じ神奈川県内でもあり、制作者やサポーターの活動エリアでもあるので、地域についてのバリアはなかった。2会場には大変協力いただき、チラシ作成ばかりでなく広報・配布についての効果的な発送も考えていただいた。しかし、藤沢市での上映会は、制作者とだけでなく地域にいる外国につながる保護者や子どもとの対話を目指しており、それならば多言語のチラシを作るべきだったという意見が、制作者からあがった。あーすぶらざのときのように、初期段階から制作者と話し合い、制作者が思いを十分伝えられるよう配慮が必要であった。

さらに、DST上映会・対話会を開催するにあたり、発表者が思いや考えを自由に発言できるような場を確保できるよう、進行のしかたと共に、プライバシーの保護やヘイトスピーチからの保護など、安全面での配慮や対策も今後は必要になるだろう。

**<取組2>**

取組の名称	「外国につながる子どもたちを地域とつなげる」プロジェクト
取組の目標	地域に暮らす外国につながる子どもたちを保育園・幼稚園・小学校とともに地域とつなげる。プロジェクトを通して、外国につながる子どもたちの発達段階に応じたことばの獲得を確実にするため、年少期より参加できる場を提供し、家族を含め、地域で関わる人との関係も築き、地域で支える基盤を作る。また、保護者が地域の先輩や地域住民とつながり、子育てに必要な情報や日本語を習得する機会を得るための案内や工夫をする。
取組の内容	A:【サポーター養成講座】外国につながる子どもたちのことばを育む支援のためのサポーターの養成を行う。日本生まれの子どもたちも含め、外国につながる子どもたちの発達や成長に応じた支援方法や心構えを学ぶ。 B:【サポート教室】外国につながる子どもたちが、養成講座でも学ぶサポーターとともに、学校生活や教科学習に必要な日本語および教科学習の理解のための支援を行う。 C:【プレスクール(就学前親子教室)】外国につながる子どもたちと保護者の日本語教室をそれぞれ実施し、外国につながる子どもたちは就学前に身につけておく必要のある日本語、生活習慣、きまり等を学ぶ。保護者は子どもの養育や家庭教育、就学準備、日本の学校文化や習慣などを学ぶ。

<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動
--------------------------	--------------------

取組による体制整備	川崎市および幸区役所の地域みまもり支援センターの学校・地域連携担当や保育所等・地域連携担当や小中学校や保育園と外国につながる子どもたちや保護者の包括的な支援体制の整備に努めた。また、保育園・幼稚園・小中学校等に通う外国につながる子どもたちと親など保護者のおかれている状況を把握し、多面的な地域日本語教育および支援の必要性を共有した。
-----------	--

取組による日本語能力の向上	外国につながる子どもたちが、学校生活に必要な日本語と同時に、学習に必要な日本語の基礎となる日本語や教科学習の理解のための日本語を学んだ。親は、子どもの養育や家庭教育、就学準備や日本の学校生活等に関する日本語を学んだり、必要な書類等の読み方や書き方を学んだ。
---------------	--

参加対象者	川崎市および周辺に居住する外国につながる子どもと親と日本語サポーター	参加者数 (内 外国人数)	118人 ( 57人 )
-------	------------------------------------	------------------	--------------

広報及び募集方法	市民館だより、チラシ、HP、メーリングリストなど
----------	--------------------------

開催時間数	総時間 72.5 時間	内訳 (A:2.5時間×5回)+(B:2時間×15回)+(C:1.5時間×16回+2時間×3回)
-------	-------------	--

主な連携・協働先	川崎市教育委員会、川崎市立小学校校長会、川崎市立幸町小学校、川崎市立南加瀬小学校、川崎市立川崎小学校、川崎市立さくら小学校、川崎市総合教育センター、川崎市役所、幸区役所、地域みまもり支援センター(保育所等・学校地域連携)、多文化共生保育研修会、公益財団法人川崎市国際交流協会、幸国際子育てクラブトントン、川崎市市民活動センター
----------	---

受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	22	2	2	8		2		5	12	61
※該当する場合のみ バングラデシュ 2 ドイツ 2										

**実施内容**

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
A1	平成30年8月5日(日) 13:30~16:00	2.5	川崎市 幸市民館	26	サポーター養成講座①	就学前後の支援をつなぐ～複数の言語環境で育つ子どもの「ころばの発達」～ ①認知発達と言語習得:ことばの発達、複言語で育つ場合のリスクとアドバンテージ ②(就学前の)多文化児童の心理と適応:日本にいる外国につながるのある子どもとその家族 ③小学校(地域支援)の受け入れ体制:プレスクール *グループワーク: テーマに関連した課題、認識、情報の共有	内田 千春	池田恵子 加藤真帆子 古屋恵子 保崎万里
A2	平成30年9月8日(土) 13:30~16:00	2.5	川崎市 幸市民館	25	サポーター養成講座②	授業参加に向けての日本語指導～小学生の課題～ ①日本語指導の理論と方法:支援は何を目指すのか(発達段階に応じた「人」との関係づくり、認知発達を支える活動、基本的な知識やスキル) ②日本語に関する内容:日本語の特徴 ③言語能力の把握:生活言語・学習言語、4技能のバランス、母語と第二言語(英語での算数疑似体験) *グループワーク:教科書を使った日本語の支援の検討/テーマに関連した課題、認識、情報の共有	菅原 雅枝	池田恵子 片桐文雄 加藤真帆子 古屋恵子 保崎万里

A3	平成30年10月14日(日) 13:30~16:00	2.5	川崎市 幸市民館	27	サポーター養成講座③	教科学習がわかる日本語指導～中学生の課題～ ①言語能力の把握:講師が作成したチェックリストの紹介 ②日本語指導の理論と方法:支援方法の実際、高校進学へ向けた指導、つまづきやすいポイント *グループワーク:テーマに関連した課題、認識、情報の共有	田中 薫	池田恵子 加藤真帆子 古屋恵子 保崎万里
A4	平成30年11月18日(日) 13:30~16:00	2.5	川崎市 中原市民館	18	サポーター養成講座④	中・長期の日本語指導～具体的な指導計画と教材づくり～ ①現場での実践:現場の状況・条件に応じた指導・支援計画の設計 ②個別の指導計画の立て方:コースデザイン、日本語プログラムの考え方、個別の指導計画の実際、実際に支援中の在籍学年別に4技能の力の把握 *グループワーク:指導計画の設計	築樋 博子	池田恵子 片桐文雄 加藤真帆子 古屋恵子
A5	平成30年12月9日(日) 13:30~16:00	2.5	川崎市 中原市民館	15	サポーター養成講座⑤	学校・地域・他機関との協力体制づくり～支援者としてできること～ ①教育コミュニケーションのデザイン:ライフコース・学びの連続性を考える、社会的資源(支援者の役割) ②地域の支援ネットワーク:ノンフォーマル教育、多様な立場の教育・支援 ③自己の成長、環境づくり:事例紹介、自身の人生および支援活動との関係についてふりかえり *グループワーク:各地域での日本語支援のネットワークの実際を共有	齋藤ひろみ	池田恵子 片桐文雄 加藤真帆子 古屋恵子
B1	平成30年8月4日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 幸志館	10	日本語サポート教室①	日本語習得等の状況の聴き取り・日本語学習支援活動 ・小学生(低学年):宿題支援、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習・受験対策	古屋恵子	池田恵子 保崎万里 吉田和江 東條光一
B2	平成30年8月11日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 幸志館	5	日本語サポート教室②	日本語習得の状況聴き取り・日本語学習支援活動 ・小学生(低学年):宿題支援、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習・夏休みの宿題支援	加藤真帆子 古屋恵子	池田恵子 片桐文雄 吉田和江
B3	平成30年9月8日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 幸志館	8	日本語サポート教室③	日本語習得の状況聴き取り・日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援	加藤真帆子	池田恵子 片桐文雄 川崎宏子 保崎万里 吉田和江 東條光一
B4	平成30年9月22日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 幸志館	10	日本語サポート教室④	日本語習得の状況聴き取り・日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援	古屋恵子	池田恵子 川崎宏子 保崎万里 吉田和江 東條光一
B5	平成30年11月3日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 幸志館	11	日本語サポート教室⑤	日本語習得の状況聴き取り・日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援	加藤真帆子 古屋恵子	池田恵子 川崎宏子 保崎万里 吉田和江 東條光一
B6	平成30年11月10日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 幸志館	11	日本語サポート教室⑥	日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援・診断テスト対策	古屋恵子	池田恵子 川崎宏子 保崎万里 吉田和江 東條光一

B7	平成30年11月17日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 幸志館	6	日本語サポート教室⑦	日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援・診断テスト対策	-	池田恵子 片桐文雄 吉田和江 東條光一
B8	平成30年12月8日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 図書室	11	日本語サポート教室⑧	日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援・中間テスト対策	古屋 恵子	池田恵子 片桐文雄 川崎宏子 保崎万里 吉田和江 東條光一
B9	平成30年12月15日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 図書室	10	日本語サポート教室⑨	日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援	-	池田恵子 片桐文雄 川崎宏子 吉田和江 東條光一
B10	平成30年12月22日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 図書室	8	日本語サポート教室⑩	日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援	古屋恵子	池田恵子 片桐文雄 保崎万里 東條光一
B11	平成31年1月12日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 図書室	12	日本語サポート教室⑪	日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援	古屋恵子	池田恵子 片桐文雄 川崎宏子 保崎万里 吉田和江 東條光一
B12	平成31年1月19日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 図書室	12	日本語サポート教室⑫	日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援	加藤真帆子 古屋恵子	片桐文雄 川崎宏子 保崎万里 吉田和江 東條光一
B13	平成31年1月26日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 図書室	12	日本語サポート教室⑬	日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援・期末テスト対策	加藤真帆子 古屋恵子	池田恵子 保崎万里 吉田和江 東條光一
B14	平成31年2月9日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 図書室	8	日本語サポート教室⑭	日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援・期末テスト対策	古屋恵子	池田恵子 片桐文雄 保崎万里 吉田和江 東條光一
B15	平成31年2月16日(土) 10:00~12:00	2	幸町小学校 図書室	11	日本語サポート教室⑮	日本語学習支援活動 ・小学(低学年):宿題支援、音読、絵本の読み聞かせ、クイズ、グループ活動 ・小学生(中学年):漢字学習・読解支援 ・小学生(高学年):漢字学習・読解支援 ・中学生:日本語学習支援・期末テスト対策 *全員で交流会(ゲームなど)	古屋恵子	池田恵子 川崎宏子 保崎万里 吉田和江 東條光一

C1	平成31年2月8日(金) 15:30~17:00	3	川崎市立 幸町小学 校	1	プレスクール1	子:学校に持ってきていいものの確認・あいさつ・歌・体の部位、体調・グループ活動の福笑い、体の部位の名前をひらがなスタンプで押す・学校見学・トイレの使い方	加藤真帆子	
				1		親:学校に持ってきていいものの確認・子どもの名前の確認・入学ガイドブックで説明・入学式に持ってくるもの・連絡帳の書き方・「わくわくプラザ」の説明	片桐文雄	
C2	平成31年2月9日(土) 14:00~16:00	4	川崎市立 南加瀬小 学校	0	プレスクール1	子:学校に持ってきていいものの確認・あいさつ・歌・体の部位、体調・グループ活動の福笑い、体の部位の名前をひらがなスタンプで押す・学校見学・トイレの使い方	—	
				1		親:子どもの名前の確認・入学ガイドブックで説明・入学式に持ってくるもの・連絡帳の書き方・学校に持ってきていいものの確認・「わくわくプラザ」の説明・必要に応じた提出物の記入支援	保崎万里	
C3	平成31年2月15日(金) 15:30~17:00	3	川崎市立 川崎小学 校	3	プレスクール1	子:学校に持ってきていいものの確認・あいさつ・歌・体の部位、体調・グループ活動の福笑い、体の部位の名前をひらがなスタンプで押す・学校見学・トイレの使い方	加藤真帆子	大久保光
				4		親:子どもの名前の確認・入学ガイドブックで説明・入学式に持ってくるもの・連絡帳の書き方・音読・わくわくプラザの説明	古屋恵子	片桐文雄
C4	平成31年2月16日(土) 14:00~16:00	4	川崎市立 幸町小学 校	1	プレスクール2	子:手遊び歌・学校に持っていくものの確認・体の部位の確認・着衣のジェスチャー・絵本「1年1組の一日」・歌・リラックス体操・信号の色の名前・グループ活動の福笑い・作ったポスターにひらがなスタンプで語彙を押す	吉田和江	
				1		親:学校にもっていくものの確認・入学ガイドブックで説明・持ち物の記名・通学路・提出物の確認と必要に応じた記入支援	古屋恵子	
C5	平成31年2月19日(火) 15:30~17:00	3	川崎市立 川崎小学 校	1	プレスクール2	子:手遊び歌・学校に持っていくものの確認・体の部位の確認・着衣のジェスチャー・絵本「1年1組の一日」・歌・リラックス体操・信号の色の名前・グループ活動の福笑い・作ったポスターにひらがなスタンプで語彙を押す	加藤真帆子	
				5		親:入学ガイドブックで説明・持ち物の記名・通学路・提出物の確認と必要に応じた記入支援・学校にもっていくものの確認	池田恵子	
C6	平成31年2月20日(水) 15:30~17:00	3	川崎市立 南加瀬小 学校	0	プレスクール2	子:手遊び歌・学校に持っていくものの確認・体の部位の確認・着衣のジェスチャー・絵本「1年1組の一日」・歌・リラックス体操・信号の色の名前・グループ活動の福笑い・作ったポスターにひらがなスタンプで語彙を押す	—	
						親:入学ガイドブックで説明・持ち物の記名・通学路・提出物の確認と必要に応じた記入支援	—	
C7	平成31年2月22日(金) 15:30~17:00	3	川崎市立 幸町小学 校	1	プレスクール3	子:手遊び歌・学校に持っていくものの確認・絵本「1年1組の一日」・歌・リラックス体操・信号の色の名前・通学路を書いてみる、指の数ゲーム	加藤真帆子	
				1		親:入学ガイドブックで説明・学校の行事・親が参加できる行事・学校への連絡の仕方・入学式の登校時間持ち物の確認	片桐文雄	

C8	平成31年2月26日(火) 15:30~17:00	3	川崎市立 川崎小学 校	4	プレスクール3	子:手遊び歌・学校に持っていきものの確認・絵本「1年1組の一日」・歌・リラックス体操・信号の色の名前・グループ活動の福笑い・ひらがなスタンプで語彙を押す	加藤真帆子	大久保光
				6		親:入学ガイドブックで説明・学校の行事・親が参加できる行事・学校への連絡の仕方・「わくわくプラザ」の説明・入学式の登校時間持ち物の確認・提出物の確認と必要に応じた記入支援	池田恵子	高柴由美子
C9	平成31年2月27日(水) 15:30~17:00	3	川崎市立 南加瀬小 学校	1	プレスクール3	子:学校に持ってきていいものの確認・絵本の読み聞かせ・体の部位の確認・絵本「1年1組の一日」・歌・リラックス体操・ハンカチのたたみ方・遊びの名前・折り紙遊び	片桐文雄	
				1		親:入学ガイドブックで説明・学校の行事・親が参加できる行事・学校への連絡の仕方・「わくわくプラザ」の説明	池田恵子	
C10	平成31年3月4日(月) 15:30~17:00	3	川崎市立 さくら小学 校	1	プレスクール1	子:学校に持ってきていいものの確認・あいさつ・歌・体の部位、体調・グループ活動の福笑い、体の部位の名前をひらがなスタンプで押す・学校見学・トイレの使い方	保崎万里	
				1		親:学校に持ってきていいものの確認・子どもの名前の確認・入学ガイドブックで説明・入学式に持ってくるもの・連絡帳の書き方・音読・「わくわくプラザ」の説明	片桐文雄	
C11	平成31年3月5日(火) 15:30~17:00	3	川崎市立 さくら小学 校	5	プレスクール2	子:学校に持ってきていいものの確認・あいさつ・歌・体の部位、体調・グループ活動の福笑い、体の部位の名前をひらがなスタンプで押す・学校見学・トイレの使い方	加藤真帆子	大久保光
				6		親:学校に持ってきていいものの確認・子どもの名前の確認・入学ガイドブックで説明・入学式に持ってくるもの購入するもの・持ち物の記名・連絡帳の書き方・学校への連絡のしかた・「わくわくプラザ」の説明・入学式の登校時間・持ち物の確認・提出物の発揚に応じた記入支援	古屋恵子	池田恵子 石原みどり(通訳)

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【取組2A 第3回 平成30年10月14日 サポーター養成講座@幸市民館】

教科学習がわかる日本語指導～中学生の課題～

1. 言語能力の把握:講師が作成したチェックリストの紹介
2. 日本語指導の理論と方法:支援方法の実際、高校進学へ向けた指導、つまづきやすいポイント

- ①初期の日本語指導の考え方
- ②子どもの立ち位置の診断
- ③学習力に必要な言葉と文の構造
- ④日本語力・学力差に応じた指導
- ⑤算数・数学に繋げる教材選定の視点
- ⑥教科に繋げる教材選定の視点
- ⑦書く力は聞く・話す・読む力も育てる
- ⑧読む力と漢字

\*グループワーク:テーマに関連した課題、認識、情報の共有



○取り組み事例②

【取組2B 第10回 平成30年12月22日 日本語サポート教室@川崎市立幸町小学校図書室】

○学年別に分かれ、個別あるいは、グループ学習を行う。

- ・小学生(中学年):冬休みの宿題、冬休みの過ごし方のスケジュール表づくり、文章読解、漢字学習
- ・小学生(高学年):冬休みの宿題、読解、漢字学習、算数問題
- ・中学生:数学の方程式の学習、日本語の動詞文(「て形」「た形」とそれに沿ったやさしい読み物

○全員で、職業あてクイズに答える。その後、各国について○×クイズを行う。



### ○取組事例③

【取組2C 第11回 平成31年3月5日 プレスクール(就学前親子教室)@川崎市立さくら小学校】

#### 【子どもクラス】

1. 学校に持ってきてもいいもの:前日実物で行ったクイズの復習。持ち物のカードと小さいランドセルを配り、各自で考え答え合わせ
  2. 日本語以外の言葉(母語)の大切さについて
- \* (ここから保護者は隣の教室に移る。入学式当日の持ち物確認、資料を参考にした学校についての説明、個別の質疑応答、書類記入のサポート、わくわくの説明など。)
- 以下、子どもの教室での活動
3. あいさつ、出欠の返事の仕方
  4. 絵本の読み聞かせ:『手』を読んで、家族の名前、大きい小さい、などを確認  
:『1年1組の1日』を読みながら、自分で着替えができるか、掃除のようす、給食などのページを見て確認
  5. 歌:「頭肩膝ポン」:体の部位、顔の部位の語彙などを確認
  6. 体の語彙のゲーム:先生がいったところの部位を指す(先生はわざと違うところを指すこともある)
  7. ジェスチャーゲームと保健室の紹介:先生や前に出た子どもが、どうしたのかジェスチャーからあてる(頭が痛い、背中がかゆいなど)。
  8. トイレの使い方:トイレや手洗い場へ移動して、実際に使ったり見たりして、使い方を確認。廊下での歩き方も確認。
  9. 自由活動:福笑い、ひらがなスタンプ(プリントに体の語彙や自分の名前をスタンプする)、塗り絵(体のプリント)、絵本など、各自自由に活動。
  10. 帰りのあいさつ、自分の名前のお席カードを探し、シールをはる。

#### 【親クラス】

1. 学校に持ってきていいもの:水筒の中身などを確認
2. 入学説明ガイドブックを使い、説明(1年の行事・学校の1日など)
3. 購入するもの、持ちものの記名について(全てのものにひらがなで)確認
4. 通学路・登校/下校時間など学校でよく使うことばの確認
5. 休み、早退、遅刻の連絡について説明、電話のかけ方、連絡帳の書き方の練習
6. 「わくわくプラザ」の職員によるガイダンス
7. 入学式の集合時間、持ち物を確認
8. 入学式の日の提出物の確認と必要に応じた記入支援



## (2) 目標の達成状況・成果

A: サポーター養成講座では、各回のアンケートによると、自身のふりかえりができたという参加者からの回答が多数あった。また、子供の成長や発達を意識しながら支援することや、ネットワークの重要性を認識したとの回答も多かった。講義とワークショップの2本立てにしたことで実践的活動に結び付きやすいと好評だった。

B: 日本語・学習サポート教室は、夏休み後は、少数ではあったが必ず来室して学習しており、参加意欲が感じられた。日本語や社会科、数学で、あまり理解が進んでいない箇所が明らかになり、覚えなければいけないものや練習が足りないところがはっきりして、宿題にするなどの対策が取れた。今回参加してくれた学習者(中学生)は、学校からの呼びかけがあって来室した人が多かった。スタッフの中には、実際に地域の学校で日本語指導をしている方もいて、家族を含めた学校とのつながりができてきたといえる。参加した児童同士でも同じような境遇の子どもが参加しており、ゲーム等を通して交流がみられた。

C: プレスクールは、市内の外国につながる児童の増加を鑑み、特に増加の顕著な川崎市・幸区の各2校の計4校延べ11回の開催ができた。プレススクールの申込に関しては、チラシの多言語掲載に加え、保育園・幼稚園や小学校からの説明しながらの手渡ししが有効であった。保護者については、各校の「入学説明会の資料」及び、多言語のガイドブックや実物・写真を使用しながら学習を進めることによって、入学の不安が解消されたとの感想が聞かれた。また、入学後の相談機関を知り、当該校の教員との話し合いもでき、つながりができているようが見られた。通訳の必要な保護者に関しては、通訳者の協力を得、指導者・サポーターは「やさしいにほんご」を用いて理解ができたかの確認を取りながらゆっくり説明したことは、理解を深めるとともに、安心感につながったようであった。

プレススクールに、参加した外国につながる子どもたちは、保育園だけでなく、幼稚園に在籍中の子ども、数か月前に来日したばかりで日本語が全然わからない子どもなどであった。はじめは緊張してほとんど話していない子どもも、徐々に慣れ、日本語で発話したり、日本語がわからない子も、まねをしながら楽しそうに活動に参加しているのが見受けられた。このことから、外国につながる子どもたちの発達段階に応じたことばの獲得を確実にするため、年少期より参加できる場をある程度提供したと言える。

また、子どもの教室の活動を通して、その子はどのような表現が聞いてわかるのか、言えるのか、知らないのか、支援者は必要か、あるいはどんな支援が必要かといったことについて、気づいたことを、国際教室の担当者などに伝えることができた。その他、多文化共生保育研修会の保育士とその子の家族背景やふだんの様子なども共有できたり、学童保育の担当者ややさしい日本語による資料作りを共有できたりした。そして、川崎区の行政関係者などや小学校の管理者が見学に訪れた。こうした子どもや保護者の実際を目にすることで、理解が深まり、その後地域での具体的なサポートの在り方の検討材料になると考えられる。昨年度に引き続きの学校及び新規の学校も含めて、少しずつであるが連携できてきたといえる。

### (3) 今後の改善点について

A:子どもへの支援を開始した後、その支援の妥当性を検証するのにフォローアップ講座が重要だと回答もあった。子どもへの支援を始めたばかりの方は現場で相談する人も少ないことも自明である。今回は養成講座であり、すでに支援をはじめている方向けへの内容変更へ調整が必要であったが、今後も、ブラッシュアップ研修が必要がある。今回のような広く参加者を募る研修は、自主的な研修であるため、参加条件も広く、拘束力などなく、参加意欲の維持が難しい。キャンセル待ちの登録制度など、参加数確保のための工夫が必要である。支援者のニーズと、支援者に知ってほしい内容とがかみ合わない懸念もあるため、申込時点で、参加者についての経験やニーズをよく把握する必要がある。

B:外国につながる子どもたちの中には、学習に不安を抱えながら、具体的な学習の手立てを知らなかったり、億劫に感じたりするために、学習の機会を逃している可能性がある。今回参加した中学生は、学校からの呼びかけがあつて来室したが、学校が外国につながる子どもの状況を把握しきれていないこともある。外国につながる家庭の親子には、積極的に学校が働きかけ、将来のために日本語及び教科の学習の機会を得られるようにする必要があるが、学校ごとに意識が異なるため、こうしたサポート教室での活動から見えてきた情報を、学校側にも共有していきたい。また、サポート教室は、そうした学習を支援するのに支援者の確保、学習者の参加意欲を促す方法にもう少し工夫が必要である。今回、地域にいる日本語が堪能な外国の方や、地域の大学の先生を通して、こうした活動に興味のある大学生などが手伝ってくれた。そのため、日本語指導者やコーディネーターのサポートとともに、打ち合わせや反省会による共有の時間の確保、養成講座への参加を促したりして、学習者の学習意欲を促す活動の在り方をより模索する必要がある。また、学習者の参加意欲を促す工夫として、低学年にはグループ活動を行い、好評だったが、高学年以上は、日本語レベルや学習内容が様々で、グループ活動が少なかった。横のつながりを強化するためにも、テーマシラバスによる活動やプロジェクトを行ってもよいかと考えられる。

C:プレスクールについて、小学校側は外国につながる保護者に積極的に連絡するなど活動の必要性を理解していたが、学校側が把握している人数に満たなかったりして、保護者にこの活動の有用性が伝わっていないと考えられる。本来は、プレスクールだけでなく、学校が始まってから、実際に困り感が出てからもう一度サポートできるような機会を作ることが必要である。また、プレスクールの開催が平日のみの小学校では参加が少なかったり、休日の開催があつても、1回しかなかったため、1回しか参加できない方もいた。保護者の中には、聞きたいことが多すぎて、とても1回では伝えきれないこともあつた。これは、小学校が休日に協力できる人員確保が難しかったためである。プレスクールの重要性と、その具体的な日時のニーズを小学校に伝え、休日開催を最低2回はできるように調整したい。そして、子ども教室の大切さも事前によく伝え、初回から子連れで参加するよう周知をすることが大切である。3回開催した小学校もあつたが、2回以上参加した子どもはいなかったため、内容はサバイバル日本語の確認にとどまった。日本生まれ、あるいは幼少期から日本にいる複数言語環境の子どもは、日本語のみが家庭言語である子どもに比べて、基礎語彙に大きな差があることが知られている。しかし、こうした子どもは、会話ができるため、はじめはその困り感に学校側が気づかず放置され、中・高学年になってあわてて支援をはじめることが多い。プレスクールの時点で、もう少し抽象的な語彙の使用場面や、基礎的な学習語彙(数など)の理解度を確認しておき、早めに必要な支援ができるような判断材料を確保したい。そのためにも、活動内容もより精査し、そういったことを短時間で把握できるような改善も必要である。また、保護者についても、日本語レベルや初めてのお子さんかどうかなどの子育ての経験の違いから、知りたいこと、知らせたいことになり差があり、保護者1名に対し、指導者・補助者・通訳者の複数での対応が必要なケースもあつた。今後、必要とする参加者が増え、入学後の学校内の指導に役立たせるには、スタッフだけでなく、管理職や国際教室の担当教員との連携がより必要であると考えられる。最終的には、学校説明会と同様、継続的にプレスクールも各学校で開催できるようにすることが肝要で、こうしたノウハウを学校側に伝え、学校主体で行えるように連携を進めることが大きな課題であり、目標である。

#### 4. 事業に対する評価について

##### (1) 事業の目的・目標

地域社会で外国につながる子どもたちおよび外国人市民が、対話型の活動を通して、日本での生活において、また自分の国や地域の文化・習慣を伝えるのに必要な日本語を習得し、日本語でのコミュニケーションのあり方を学ぶ。また、日本語母語話者も、取組を通して、市民同士としての関係が築けるようなコミュニケーションのあり方を学び、ともに学びあう。そして、これまでの成果を広く地域住民や行政・教育機関等に発信し、地域に暮らす外国人等市民の現状や課題について理解を深め、多文化共生のまちづくりに寄与する。

##### (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

外国につながる子どもやその保護者に関わる取組では、参加者へのアンケートやインタビューにより、自身の疑問点や学校生活や学習に必要なことばや情報を得ることができたことが明らかになった。DST上映会では、保護者として長く日本で生活する制作者がDST作品や本人の”今”の語りを通して、行政・教育関係者や有識者、外国人の支援者や大学生などの地域住民に発信し、対話会ではお互いに思いを語ることができ、相互理解が深めることができた。日本語・学習サポート教室やプレスクールに参加した外国人保護者やその子どもの課題については、運営委員会で報告し、行政・教育関係者と共有することができた。

##### (3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

昨年度まで制作したDST作品を活用し、川崎市以外の地域の施設で上映することができ、その施設との連携により、近隣あるいはネットワークのある施設や支援団体への周知ができ、対話会の場でお互いの活動や課題について共有する機会を持てた。そのなかで、長く中国帰国者等の支援を続けていて、DST制作者の一人(本取組の発表者)も通っている「ユッカの会」の協力も得ることができ、外国人市民の課題だけでなく、支援側の試行錯誤や課題についても共有し、発信することができた。

外国につながる子どもや保護者への支援に関しては、保育園の職員などから構成される多文化共生保育研修会との連携により、川崎区および幸区役所地域みまもりセンター保育所等・学校連携担当の理解が得られ、川崎区および幸区の保育園や幼稚園、小学校から外国人保護者へ広く周知ができた。就学前の保護者は日本での学校教育の経験がなく、また地域にもあまり知り合いもなく、子どもの入学に対し、わからないことがわからない状態で、不安があったようだ。その保護者からとても安心できたという声があった。学校や保育園が地域の団体とつながり、お互いに外国人に声をかけあうことで、より参加動機も高まったようである。

また、サポート教室に参加した外国につながる子どもたちは、学校の先生からの紹介で参加し、そのうち、地域の支援者との関係性が参加動機につながっていたようである。

##### (4) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

本年度は、川崎市市内での活動に関しては、教育委員会主催の川崎市外国人教育推進協議会や日本語教育推進調整会議、国際交流協会、学校校長会、川崎区および幸区役所の地域みまもりセンター等から保育園、幼稚園、小学校などの機関や関心をもつ地域住民への周知が昨年度以上にできた。取組内容についても小中学校やわくわくプラザ(学童保育)の運営団体や多文化共生保育研修会等との連携・協力体制ができ、相互によりよい内容の提供ができたと思われる。プレスクール(就学前親子教室)は昨年度より開催会場も増やすことができ、多くの小学校入学予定者が参加し、小学校には事前学習の場の必要性が伝えられた。また、DST作品上映会は川崎市から神奈川県下へと広がり、昨年度の藤沢市に加え、横浜市の神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぶらざ)でも実施でき、近隣地域の日本語教室だけでなく、広く周辺地域の施設でも周知できた。

##### (5) 改善点、今後の課題について

###### ①新たな課題

(1)中国帰国者や日系南米人の言語や関係性構築などの課題が今も継続していること、その課題が新しく来日する外国人等市民の課題解決に活かされてないことなどが明らかになった。また、その課題はもちろんのこと、中国帰国者等のことも知らない若い世代も増えていることもわかった。

(2)H26年からDST事業を開始し、制作者が発信する機会を重ねるにつれ、こうした企画の在り方について意見があるものの、それを伝える機会が限られることがわかった。取組会議段階から、積極的に参加してもらい、対等な立場でこうした事業を進めることがお互いのためによいと考える。

(3)H26年から事業を開始し、今年度までの5年間で、川崎市における0～4歳の外国人住民人口は1.6倍にもなっている。他の年齢別人口区分に比べ、急増している。その間、保育園も増設され、保育園では保護者との文化的・言語的差異に困惑していることがわかった。また、外国につながる子どもの保護者は、就労時間等の都合で行政サービスの受けられない、地域とのつながりもない、地域での子どもの安心安全の確保に不安な様子であった。また、複数言語・複数文化の生活環境下での育成に対する知識をもちあわせてない保護者も多かった。なかには、日本生まれや30年以上も日本に滞在しているのにも関わらず、日本語での読み書きがほとんどできない保護者もいた。また、保育園や幼稚園に通園しておらず、日本語が全然わからない子どももいた。こうした親子の文化適応や言語学習の支援は、数回のプレスクールでは不十分であり、より早くから長期的な支援をはじめることが望まれる。

(4)こうした様々な取り組みに、外国人市民の参加を募るためには、チラシなどで周知するだけでは不十分であり、地域の日本語学習支援者関係だけでなく、保育者、学校、保健士など様々なアプローチで背中を押す必要があることがわかった。

(5)逆に、外国につながる子どもへの支援者は、日々孤軍奮闘しており、遠方からでもブラッシュアップ講座に参加する意欲があり、発達段階に応じたことばの獲得に強い関心がある一方、その参加を維持するためには、参加者のニーズにあわせた内容調整が必要であることがわかった。

###### ②今後の改善点

(1)地域で行われている継続的な日本語学習の場や多文化共生事業の取組のなかで、DST作成や上映会、対話会の実践を取り入れ、日本語学習者も対等な立場で企画に参加し、地域へ発信する活動の一つとして位置づけていきたい。

(2)外国につながる子どもたちが増えるなか、複言語・複文化環境で生きる子どもたちのことを学校や地域で課題を共有し、課題解決に向けた連携体制をととのえていきたい。

※提出するチラシ等(別添) ※携帯番号の記載があるチラシはHPIには掲載していません。

- ファシリテーション・ワークショップ
- 藤沢 DST上映会・対話会
- 横浜 DST上映会・対話会
- サポーター養成講座
- 日本語サポート教室
- プレスクール(3種)